

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 20 日現在

機関番号：28001

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2010～2011

課題番号：22820051

研究課題名（和文）歌仔戯における模倣と郷土性に関する研究

研究課題名（英文）A Study on "Imitation" and "Indigenity" of *Gezaixi*

研究代表者

大畑 亮子 (OHATA RYOKO)

沖縄県立芸術大学・付置研究所・研究員

研究者番号：30589784

研究成果の概要（和文）：歌仔戯は二十世紀初頭の台湾で成立した、中国戯曲のなかでも比較的新しい劇である。二十世紀初頭は台湾でレコードが普及した時期でもあり、多くの音源が残されている。レコードを用いた奏者やジャンル、劇音楽の旋律や楽器編成などの実態調査から、歌仔戯と当時台湾で享受されていた多種多様な芸能との間に共通点が見出された。歌仔戯が郷土の劇として台湾で受け入れられた要因として、多数派言語（閩南語）の使用のみならず、既存の音楽要素を複合的に導入し時代と社会が求める芸能を体現していることが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：*Gezaixi* is a comparatively new genre of play in Chinese drama that had been formed in Taiwan in the beginning of the 20th century. Around this age, the phonograph came to be spread in Taiwan too resulting lot of records to be produced. The contents of those records like performer, genre, melody, composition, musical instruments etc were studied in this research. According to the investigation, some aspects common to other performing arts in Taiwan were found in *Gezaixi*. From the analysis, we understand *Gezaixi* used language of the majority in Taiwan. Besides, it reflected the existing musical elements what the society seek at that time. Those elements have the possibility of being considered as indigenous in this research.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	770,000	231,000	1,001,000
2011年度	760,000	228,000	988,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,530,000	459,000	1,989,000

研究分野：中国戯曲音楽

科研費の分科・細目：芸術学・芸術学、芸術史、芸術一般

キーワード：台湾、日本統治期、歌仔戯、中国戯曲音楽、郷土性、レコード

## 1. 研究開始当初の背景

(1)歌仔戯が形を整えた 1900 年代初頭の台湾では、当時台湾を統治していた日本を通じ、社会のみならず芸能にも近代化・西洋化の波が押し寄せた。その一方で中国由来の習俗も

依然として行われ、芸能も従来から親しまれてきた土着の民間芸能のほか、中国の上海や福建からも京劇などの劇団が度々巡業に訪れた。歌仔戯の舞台装置や技術など劇の構成要素の多くは、そういった他の中国戯曲や民

間芸能に影響を受けたと言われる。しかし、異なるジャンル間に見られる共通点と相違点、そして影響を具体的に示した、とりわけ音楽に関する考察は殆ど行われてこなかった。

(2)日本の国立民族学博物館（以下、「民博」と略称）には日本コロムビアが昭和初期に外地向けに制作発売した七千枚以上ものレコードが収められており、またそれらは『日本コロムビア外地録音ディスコグラフィ』（人間文化研究機構連携研究「外地録音資料の研究」プロジェクト編集・発行、2007）として整理されている。そこには現代では既に演じられなくなったジャンルや演目も散見できる。ただし、主に歌詞カードや注文台帳といった文字資料をもとに演者や作品名などを整理してあるが、実際に吹き込まれた内容、とくに楽器や劇中で奏される旋律といった音楽の実態が見えない。

(3)レコードは、吹き込まれた時代の音を単に記録しているだけでなく、制作販売当時の社会における聴覚的嗜好を今に示す。様々な芸能の要素を導入しながら形を整えていく歌仔戲の音楽の初期の姿が、そこには残されているのではないか。以上の背景と動機により、戦前に台湾で制作されたコロムビアレコードを研究素材とし、そこに記録された歌仔戲の音楽を研究対象とした。

## 2. 研究の目的

(1)1900年代初頭に台湾で成立し、当時行われていた各種芸能ジャンルの様式を模倣する中で確立していく歌仔戲の音楽の実態を、当時制作されたレコードおよび周辺資料の分析から考察する。

(2)中国からの訪台と興行回数が多かったとされる上海派京劇と歌仔戲の共通点と相違点を明らかにする。

## 3. 研究の方法

(1)レコード資料の視聴と採譜：国立民族学博物館において館所蔵のコロムビアレコードと附属資料を視聴。音盤から旋律を聞き取り、採譜する。

(2)資料整理：『日本コロムビア外地録音ディスコグラフィ』記載情報と実際に視聴した資料を比較し、再整理したリストを作成する。他先行研究や新聞記事などをもとに情報を追加する。

(3)分析と検討：主にレコードの聞き取りから得られたジャンル・音楽従事者（役者/楽師/作曲家/編曲者）・楽器編成・旋律・構成など

を分析し、歌仔戲とその他芸能ジャンルの関連性を検討する。

## 4. 研究成果

研究開始当初は、上海派京劇と歌仔戲との比較考察を中心に行う予定であった。しかし、民博が所蔵するコロムビアレコード資料の歌仔戲レコードを実際に視聴したところ、その音楽内容は様々な芸能ジャンルが渾然としており、吹込み内容全体の確認と整理から作業を進める必要性を感じた。そのため、研究の実際は上海派京劇を対象を限定せず、各種ジャンル全体と歌仔戲の比較から考察することとなった。民博所蔵のコロムビアレコードのうち台湾での販売盤とディスコグラフィに挙げられているものは1,065枚（1枚につきA面/B面で計2,130面）ある。そのうち、音楽従事者（役者/楽師/作曲家/編曲者）・楽器編成・旋律・構成に関して歌仔戲と共通点のある芸能ジャンルは次の9系統にまとめられる。

- ①歌仔戲系（歌仔戲/新欵歌戲/歌仔曲）
- ②北管系
- ③南管系
- ④採茶戲系（採茶戲/改良採茶/勸世文）
- ⑤京劇系（京音、正音）
- ⑥新興劇系（新歌劇/新劇/文化歌劇/文化劇）
- ⑦流行音楽系（流行歌/小曲/映画主題歌/新民謡/歌舞曲など）
- ⑧中国民間器楽系（二品/雙清独奏）
- ⑨漫談系（笑話/南管笑話/家庭笑劇）

(1) 音楽従事者：歌仔戲だけでなくその他ジャンルの活動も行う、バイ・ミュージカルな音楽性を備えた従事者（役者/楽師/作曲家/編曲者）が存在する。

### ①役者

- ・月中娥（歌仔戲系、北管系、新興劇系、流行音楽系、漫談系）
- ・冬氣王（歌仔戲系、京劇系、流行系）
- ・加走（歌仔戲系、採茶戲系、新興劇系、漫談系、歌仔戲原作/編劇）
- ・正人愛（歌仔戲系、漫談系）
- ・永吉（歌仔戲系、新興劇系）
- ・白蓮（歌仔戲系、新興劇系）
- ・汪思明（歌仔戲系、流行音楽系）
- ・金蓮（歌仔戲系、京劇系、新興劇系）
- ・阿玉（歌仔戲系、北管系、漫談系）
- ・阿秀（歌仔戲系、漫談系）
- ・阿葉（歌仔戲系、漫談系）
- ・阿樓（歌仔戲系、南管系）
- ・施金水（歌仔戲系、京劇系）
- ・梅中玉（歌仔戲系、新興劇系）
- ・蚶目（歌仔戲系、漫談系）
- ・雪梅（歌仔戲系、北管系、新興劇系）
- ・満台紅（歌仔戲系、漫談系）
- ・碧雲（歌仔戲系、北管系、新興劇系）

- ・碧卿（歌仔戲系、新興劇系、漫談系）
- ・清華桂（歌仔戲系、京劇系）
- ・劉清香（歌仔戲系、採茶戲系、新興劇系、流行音楽系、漫談系）

#### ②楽師

- ・林石南（歌仔戲系、中国民間器楽系）
- ・潘栄枝（歌仔戲系、南管系）
- ・リーガル華楽団（歌仔戲系、北管系、新興劇系、漫談系、流行音楽系）

#### ③作曲家/編曲者

- ・コロムビア文芸部（歌仔戲系、採茶戲系、新興劇系、流行音楽系）

歌仔戲の役者の月中娥と劉清香が流行歌歌手であったことは知られているが（月中娥は愛愛、劉清香は純純という別名で活動）、それ以外の人物も流行音楽のほか北管、南管、採茶戲、京劇といった漢文化に属する伝統的な劇や、「文化劇」等と称され伝統の枠に収まらず新しい様式を試みる新興劇系にも参加している。楽団は複数人で構成されるが、現在のところ楽師で個人名が明らかなのは劇音楽構成も兼任した林石南と潘栄枝のみである。民間音楽では異ジャンルでも同じような楽器を用い、また楽器は歌唱を主とした旋律のヘテロフォニックな追従的伴奏であることから、楽師が複数の異なるジャンルに参加することは比較的容易で少なくなかっただろう。歌仔戲の音楽従事者で注目に値するのは、レコード会社所属で作詞や作曲、編曲を担当する「文芸部」とよばれる専門家集団の存在である。コロムビア文芸部には陳君玉（作詞）、李臨秋（作詞・脚本）、周添旺（作詞）、鄧雨賢（作曲）、姚讚福（作曲）など台湾出身の各種専門家が所属し主に新興劇や流行音楽の制作に従事しており、またレコード資料に個人名はほとんど記載されていないが「文芸部」として歌仔戲作品の制作にも携わっている。西洋音楽理論を音楽学校などで学んだ専門家は、「約束事」に依拠し口だけで演じていた歌仔戲に洗練と斬新さを与え、また流行音楽のモダンな雰囲気を与えたであろう。

(2) 楽器編成：レコードのレーベル面や歌詞カード、注文台帳などの文字資料には伴奏楽団の個々の楽器の情報は見当たらないが、録音を実際に聴くと、伝統的な管弦楽器と打楽器に加え西洋楽器も用いていることがわかった。

①管弦楽器：歌仔戲系のレコードで最も早い時期のものは1920年代に録音されたと考えられる黒リーガルレーベル番号58A～80Bおよび97A～100Bで、これらは台詞や演技がほとんど付かない歌謡形式の歌仔曲である。歌仔曲は歌仔戲の古い様式であるが、レコードの吹込み内容を確認してみると、伴奏楽器も殼仔弦（擦弦）・大広弦（擦弦）・月琴（撥弦）・

笛の四種に限定された。これら四種は今日においても歌仔戲の主要な伴奏楽器に位置づけられる。しかし、1930年代以降に制作された歌仔戲のレコードでは上記四種に加え、三絃や揚琴、洞簫、嗩吶など他ジャンルで用いられる中国楽器が加わり始める。とくに揚琴は楽器の特性上、和音が可能であるため、楽器の多様化による音色と音楽表現の変化が顕著に感じられる。ただし伝統旋律では伝統楽器四種のみであるが、例えば北管音楽からの導入旋律ではその主要楽器である嗩吶が、流行音楽の雰囲気極めて似た新作旋律では揚琴などが加わるなど、音楽の性格に合わせた楽器編成の意図的な使い分けがみられる（旋律については(4)を参照）。

②打楽器：1920年代の歌仔曲ではすでに鑼・鐃（鉞）・卜魚（ウッドブロック類）・鼓が用いられているが、鑼鼓と称されるリズムパターンはとても簡素で旋律の間の手程度である。その理由は歌仔曲では台詞や演技がほとんど付加せず、立ち回りの激しいリズムと音色を必要としないからだろう。これは、1920年代も半ばを過ぎて初めて歌仔戲に武戲演目が入り入れられたとする定説とも一致する。一方で、新たに創作された歌仔戲作品も恋愛悲劇が主であり、1930年代以降のレコードでも鑼鼓は台詞から歌への繋ぎ部分や人物の登場時、レコード再生時の冒頭と末尾（すなわち幕間に相当）で合図的に用いられる程度で、北管などの武戲ほどの激しさはない。

③西洋楽器：現時点で確認できている限りでは、歌仔戲における西洋楽器の導入は1930年代以降の作品の一部にみられる。編成は伝統楽器と西洋楽器の混合（例えば黒リーガレーベル番号406の《奇逢仙女》では殼仔弦・大広弦・笛・揚琴・アコーディオン）と、西洋楽器のみ（例えばコロムビレーベル番号80223の《陳三設計為又》ではアコーディオン・ギター）の二種に大別できる。ただし伝統楽器と西洋楽器の混合編成でも、従来の歌仔戲と同様に主旋律を全楽器でヘテロフォニックに奏するタイプと（黒リーガル406同上）、I-V-Iのように単純でありながらも主旋律に対し和声進行で伴奏するタイプ（コロムビレーベル番号80083《陳三磨鏡》ではヴァイオリン・ピアノ・クラリネット・サクソフォン・トランペット・トロンボーン・ベース・ドラムによるジャズオーケストラ編成）の二種類あった。西洋楽器と和声進行は伝統旋律と新作旋律どちらでも用いられており、その響きはダンス音楽に近い。こういったモダンな楽器編成や編曲は、文芸部の存在が可能にしていると思われる。

(3) 旋律：中国戯曲の音楽は「一曲多用」すなわち、ある旋律の歌詞を様々に替えて歌う等、既存の旋律を使い回す方法で構成される。多くの場合、その土地に伝わる民間歌謡などの旋律を原曲とし、歌仔戯では台湾に伝わる閩南系歌謡のほか客家系歌謡や、北管や南管、京劇といった他芸能の旋律を取り入れている。こういった伝統的旋律に加え、さらに1930年代前後から歌仔戯の演劇的發展とともに新しい旋律が多く作られ、それもまた「一曲多用」されて歌仔戯の旋律として定着していった。一方、レコードでは複数の作品で聴かれるものの、今日の歌仔戯では既に用いられなくなった旋律もあると思われる。当時の流行などが歌仔戯の音楽に影響を与えていると考えられる。

① [剪剪花]：赤リーガルレーベル番号 1135A の作品《菊蓮採桑》中で歌われるこの旋律は、客家系の同名民間歌謡が原曲と思われる。ただし、客家歌謡から直接歌仔戯に導入したのか、同旋律を吸収した北管音楽を経由して歌仔戯に届いたのか、現段階では不明である。以下に数字譜で [剪剪花] の一部を示す。

12 16	5 -	56 1 56	1 -	1 3	23 5	61 63
5 -	2 1	2 1	35 61	5 -	2 5	5 2
3 32	15 23	1 -				

② [銀鈕絲]：黒リーガルレーベル番号 349A の作品《曹操逼宮》で器楽のみで奏されるこの旋律は、江蘇省揚州一帯に伝わる同名の民間曲が原曲と思われる。ただし、民間曲が直接台湾に伝わり歌仔戯に導入されたのか、あるいは揚州の地方劇である揚劇の音楽となった後に上海の劇団などを経て歌仔戯にも伝わったのか、経緯は不明である。

| 5 35 | 35 32 | 16 23 | 1 · 7 | 67 65 | 3 57 | 6 - |  
| 55 65 | 61 6 | 25 32 | 1 - | |

③ [白水仙]：歌仔戯では悲劇や悲哀の場面が好まれる傾向にあり、そのような場面で奏される旋律を【哭調】称し歌仔戯音楽の重要な旋律要素の一つとして位置づけている。従来は伝統旋律のテンポを遅く歌うことで【哭調】らしさを表現していたが、1930年代頃には多くの新しい【哭調】旋律が作られ、悲しみの表現が旋律的にも豊かになった。[白水仙]はそのような新作【哭調】のひとつである。1934年発売の赤リーガルレーベル番号 T1005B 《鳳嬌操琴》中の [白水仙] は、現在確認できるかぎりでも最も古い使用例である。

3 5 2 -	3523 5 -	6 61 6 1	2 3 23 1
2 - - -	(間奏)	2 3 5 2	3 - - -
3 - 2317	6 - - -	(間奏)	161 6 12
3 - - 53	2321 616	1 - - -	2 - - 5
3 - 5 3	2321 6 1	2 - - -	2 - - 35
3 - - 53	2321 6 1	2 - - -	

(4) 構成：コロムビアレコードではレコードの文字資料に示されたジャンル名にばらつきがみられたが、実際の視聴によって把握できたものがいくつかあった。従事者や様式などが複数のジャンルで混じり合うなかで、歌仔戯とそうでないものが音楽構成によって分別できることが示された。その重要な指数となったのが、伝統旋律であった。

① 新款歌戯：新款歌戯というジャンル分類がなされた黒リーガルレーベル番号 282 の《貳本 正有福売身葬母》は、その伝統楽器中心の楽器編成や楽曲構成が従来の歌仔戯と変わらない。また、その前編にあたる黒リーガルレーベル番号 270 の《正有福売身葬父》のジャンルは「歌曲戯」となっている。音楽構成からみると、新款歌戯と歌曲戯はともに「歌仔戯」である。

② 流行音楽風にアレンジされた歌仔戯：楽器構成の項で挙げたジャズオーケストラ編成による《陳三磨鏡》(コロムビアレーベル番号 80083A~80085B の3枚6面一組)は、《二本 陳三磨鏡》(コロムビア 80131A~80132B の2枚4面一組)さらに《三本 陳三磨鏡》(コロムビア 80173A~80174B の2枚4面一組)と続くシリーズ物となっており、すべて台詞や演技を一切挿まない一曲構成で、また楽器編成や編曲がダンス音楽の様相をみせる。これらが制作されたのと同時期にはジャズオーケストラ伴奏による民間歌謡の「流行音楽風レコード」も多く作られており(コロムビア 80076A 小曲《酒金扇》など)、上記の《陳三磨鏡》なども時代の流行に合わせて作られた一つと考えられる。ただしその旋律は伝統旋律であり、よってジャンル区分が「歌仔戯」となっていると考えられる。

③ 「笑話」に含まれる歌仔戯の音楽要素：黒リーガルレーベル番号 320 の《狂財夢》は、文字資料ではジャンル分類が「笑話」となっている。歌仔戯の役者によって演じられ、使用言語は閩南語である。台詞だけでなく歌唱を挿むが、その旋律は歌仔戯の伝統旋律 [七字調] を含みそれを大広弦と月琴で伴奏するため ([七字調] 以外の伴奏は笛・揚琴・鼓・ピアノ)、音楽的には完全に歌仔戯と一致する。以下は [七字調] の冒頭部分である。

| 21 -2 | 53 5 | 53 - | (間奏) | 53 53 | 23 - |  
| 35 32 | 1 6 | 6 - | 35 32 | 12 6 | 3 6 | 5 - |  
また黒リーガルレーベル番号 319 の《阿片害》のジャンル名は「南管笑話」で、歌仔戯の役者によって演じられるが、劇中の歌唱旋律は南管音楽の旋律である。  
| 44 - b3 | b3 - | 41 - 1 | b3 - | 41 41 | b3 - |  
| 5 - 4 | 5 5 | 5 b7 54 | b3 5 - b3 | 41 b3 17 | 1 - |  
一方、黒リーガル 268 の《禁拔皎》のように、

歌仔戲の役者によって演じられていても話芸のみの「笑話」もある。「笑話」というジャンルで一括りにされていても、その内容には違いがあり、劇中の音楽でその下位分類が可能となることがわかった。

(5) 展望：レコード資料の吹込み内容を実際に聴き整理することで、文字資料だけではイメージすることが難しい歌仔戲と他芸能ジャンルおよび当該社会の音楽的關係の様相をある程度浮かび上がらせることができた。しかし台湾で戦前経営していたレコード会社はコロムビア以外にも複数あり、歌仔戲のレコードも多く販売されている。会社の意向が劇音楽の方向性にどう反映するのか、検討が必要であろう。また、コロムビアレコードに限っていえば、1937年の皇民化運動開始後も歌仔戲を含めた中国系戯曲や閩南語による流行音楽のレコードが多数制作販売されており、皇民化運動開始以後は中国的要素を含んだ芸文活動が一切禁止されたという定説と一致しない。歌仔戲を始めとする民間芸能の活動に対しレコード会社が果たした役割についても、更なる綿密な分析と考察が求められる。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

- ① 長嶺亮子、1930年代前後のレコードにみる歌仔戲と他芸能ジャンルとの関係、ムーサ、査読無、12号、2011、43-51

[学会発表] (計2件)

- ① 長嶺亮子、二十世紀初頭のレコードからみた歌仔戲と他芸能ジャンルとの関係、第九回中日音楽比較研究国際学術会議、2011年10月14日、中国山東省山東師範大学音楽学院
- ② 長嶺亮子、コロムビアレコード資料からみる1930年代前後の歌仔戲とその周辺の劇音楽、「音盤を通してみる声の近代」共同研究会、2012年3月10日、国立民族学博物館

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

大畑 亮子 (OHATA RYOKO) (長嶺 亮子、NAGAMINE RYOKO)  
沖縄県立芸術大学・付置研究所・研究員  
研究者番号：30589784